

兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(3)*

高橋寿郎

102. 仲田元亮(1982) 増補改訂 能勢の昆虫
甲虫之部 上巻 A5, 453P.(自刊)

次のように水棲甲虫は多く記録されている。

コガシラミズムシ科2種。コガシラミズムシ, マ
ダラコガシラミズムシ。

ゲンゴロウ科12種。ケシゲンゴロウ, ニセケシゲ
ンゴロウ=ケシゲンゴロウ(学名からして), マ
ルケシゲンゴロウ, チビゲンゴロウ, ツブゲン
ゴロウ, モンキマメゲンゴロウ, キベリクロヒ
メゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ハイイロゲン
ゴロウ, シマゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ,
ゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。オオミズスマシ。

ガムシ科21種。セマルガムシ, ウスモンケシガム
シ, キバネケシガムシ, アカケシガムシ, ケシ
ガムシ, マグソガムシ, ホソケシガムシ, セマ
ルケシガムシ, シジミガムシ, スジヒラタガム
シ, キイロヒラタガムシ, マルヒラタガムシ,
チビヒラタガムシ, ヒメガムシ, オオヒメガム
シ, ガムシ, コガムシ, ゴマフガムシ, トゲバ
ゴマフガムシ, タマガムシ, マメガムシ。

チビドロムシ科2種。チビドロムシ, オオメホン
チビドロムシ。

ドロムシ科1種。ムナビロツヤドロムシ。

ヒメドロムシ科5種。キスジミゾドロムシ, アシ
ナガミゾドロムシ, イブシミゾドロムシ, キベ
リナガアシドロムシ, アワツヤドロムシ。

103. 西村 登(1983) 円山川の底生動物 円山
川水系の生物生態: 163-277。(兵庫県八鹿土木
事務所刊)

円山川水系で得られた甲虫としては, ヒラタド
ロムシ, クシヒゲマルヒラタドロムシ, マスダド

ロムシ=マスダチビヒラタドロムシ, キスジナガ
ドロムシ=キスジミゾドロムシのことか(ヒメド
ロムシ科), の4種が出てくるが和名のみなので
よくわからない表現のものがあり, 再同定の必要
があるかと思う。キスジヒメドロムシのみは同定
が正しければヒメドロムシ科のものになる。

104. 神戸新聞出版センター(1983) 兵庫県大百
科事典 上・下巻。

上巻. p.277, ゲンゴロウ。下巻. p.1064, ミ
ズスマシについて 高橋寿郎担当解説をしている。

105. M.E.Francisolo(1983) Adaptation in
hypogean Hydradephaga, with new notes on
Sanfilippodytes (Col. Dytiscidae & Phrea-
todytidae).

Special Iss. Aquat. Coleop. Work XVI
Intern. Congr. Entom. Kyoto, 1983: 5-20.
姫路産メクラゲンゴロウについての解説あり。

106. Sato, M. (1983) Distribution of the
genus Copelatus in Japan (Coleoptera: Dy-
tiscidae).

Spec. Iss. Aquat. Coleop. Work XVI In-
tern. Congr. Entom. Kyoto 1983: 35-41.
コセスジゲンゴロウ摂津の記録あり。オリジナル
ではない。

107. 市川憲平(1984) ゲンゴロウの飼育から。
インセクトリウム21(3): 60-62。

兵庫県西部で採集したゲンゴロウ, クロゲンゴ
ロウ, マルコガタノゲンゴロウ, シマゲンゴロウ
を飼育, 産卵, 羽化をさせたその状況と幼虫の形
態上の差異を解説された。

*兵庫県甲虫相資料・322

108. 田中 梓(1984) 「昆虫の手帳」
A5. 205p. (大改訂版・大阪)
ゲンゴロウ, ミズスマシについての解説あり
(p.62-65).
109. 河上仁之(1984) 伊丹市昆虫目録(1).
伊丹の自然(1): 22-32.
伊丹市内で採集された昆虫類を記録, 次の水棲
甲虫がある。
ゲンゴロウ科7種. ハイロゲンゴロウ, ヒメゲ
ンゴロウ, チビゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ,
キベリクロヒメゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ,
セスジゲンゴロウ.
ミズスマシ科1種. ミズスマシ.
ガムシ科6種. ヒメガムシ, タマガムシ, マメガ
ムシ, トゲバゴマフガムシ, キイロヒラタガム
シ, スジヒラタガムシ.
110. 佐藤正孝(1984) 日本産水棲甲虫類の分類
学的覚え書, I.
甲虫ニュース(65): 1-4.
本報文で甲東園産で記載された *Halipilus hiogo-*
ensis Kano et Kamiya, 1931 は朝鮮半島の *Deer*
Is. から記載された *H. eximius* Clark, 1863 キイ
ロコガシラミズムシのタイプ標本と比べて明らか
に区別を見出し得なかったとしてこの種のシノニ
ムに扱うとある。
111. 佐藤正孝(1985) 「原色 日本甲虫図鑑(II)」
(保育社・大阪)
p.189, pl.34, f.8. メクラゲンゴロウ 姫路.
subsp. *miurai* 柏原 の図説がある。
112. 中根猛彦(1985) コガシラミズムシ2, 3
の学名について.
月刊むし(171): 40-41.
中根博士が原色大図鑑で *Halipilus ovalis* として
図示したもの(pl.28, f.2)は佐藤正孝博士のいう
(1984) *hiogoensis* = *eximius* であり, *ovalis* は別
種で斑紋は常に発達しないものと思われる。
113. 市川憲平(1985) 水生甲虫類を飼育する。
アニマ(148): 36-38.
産地の地名は出ていないが市川憲平博士は姫路
市立水族館に勤めておられる関係で兵庫県西部産
の材料によった記録と考えられる。シマゲンゴロ
ウの写真と共に示されているが, 一般にゲンゴロ
ウ, ガムシとして個々の種についての記載はない。
114. 河上仁之(1985) 伊丹市昆虫目録。
伊丹の自然(2): 27-32.
ガムシ科ヒメセマルガムシの記録がある。
115. 高橋寿郎・蜂谷幸雄(1985) 神戸市北区押
部谷の甲虫類。(仮設)押部谷のパブリックゴル
フクラブ建設事業動物調査報告書: 18-43.
昆虫72科218種記録。水棲甲虫は次の記録あり。
ゲンゴロウ科2種. シマゲンゴロウ, コシマゲン
ゴロウ。
ミズスマシ科1種. オオミズスマシ。
116. Sato, M (1985) The Genus *Copelatus* of
Japan. (Coleoptera: Dytiscidae)
Trans. Shikoku Ent. Soc. 17(1/2): 57-67.
次の種の記録がある。
p.59. *Copelatus japonicus* Sharp セスジゲンゴ
ロウ lex., Kobe, Hyogo Pref. 24. IX. 1942,
K. Kurosa leg.
117. 佐藤正孝(1985) 日本産水棲甲虫類の分類
学的覚え書 III.
甲虫ニュース(69): 1-5.
p.5. *Graphelmis shirahatai* (Nomura) アヤスジ
ミゾドロムシ 12exs., Kaibara, Hyogo 2-17.
VII. 1949, Y. Yamamoto leg. の記録あり。
118. 中根猛彦(1985) 日本産ヒメコガシラミズ
ムシ属の種の検索表。
北九州の昆虫32(2): 61-67, pl.6, 7.
キイロコガシラミズムシ *Halpilus eximius* Chark,
1863 の須磨産の記録あり。

119. 佐藤正孝(1985) 鞘翅目(甲虫目).
日本産水生昆虫検索図説 pp.227-260.
p.230. ムカシゲンゴロウ姫路に記録ありとある.
120. 高橋寿郎(1986) 兵庫県の甲虫.
昆虫と自然21(6) : 15-18.
ムカシゲンゴロウ, メクラゲンゴロウについて解説をしている.
121. 河上仁之(1986) 伊丹市昆虫目録(3).
伊丹の自然(3) : 21-26.
ガムシ科のコガムシが記録されている.
122. 堀田 久(1987) 洲本市由良小学校付近の昆虫類. Parnassius(32) : 12-15.
コシマゲンゴロウの記録がある.
123. 河上仁之(1987) 野鳥の島の生物調査報告(1). IV. 昆虫(昆陽池)
伊丹の自然(5) : 23-25.
マメガムシ, タマガムシが記録されている.
124. 中根猛彦(1987) 日本の甲虫(2).
昆虫と自然22(13) : 27-29.
ツマキレオナガミズマシ *Orectochilus agilis* Sharp, 猪名川にて多数得られているとの記録があり.
125. 高橋寿郎(1987) 県下の水生昆虫.
鳥と自然(47) : 9-16.
コガシラミズムシ, ムカシゲンゴロウ, ゲンゴロウ, メクラゲンゴロウ, オオミズマシ, コガムシについて解説する.
126. 佐用ライオンズクラブ(1988) 千種川の生態(水生生物調査結果).
第15集(特集号)31p. 7付図
モンキマメゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ゲンゴロウ, ミズマシ, ガムシ, コガムシ, ヒメガムシ, ナガドROMシ, アシナガドROMシが記録されている.
127. 中根猛彦(1988) 日本の甲虫(83).
昆虫と自然23(5) : 28-32.
ムカシゲンゴロウ *Phreatody relictus* の解説あり.
128. 市川憲平(1988) 播州の池から虫が消えていく!
兵庫陸生生物(30) : 5-8.
播州地方の溜め池に出現する水生昆虫として次の甲虫類が記録されている.
コガシラミズムシ科, 1種. コガシラミズムシ.
ゲンゴロウ科, 12種. ゲンゴロウ, クロゲンゴロウ, マルコガタノゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, クロズマメゲンゴロウ, マメゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, ケシゲンゴロウ, アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ, キベリクロヒメゲンゴロウ.
ミズスマシ科, 2種. ミズスマシ, オオミズスマシ.
ガムシ科, 6種. ガムシ, コガムシ, ヒメガムシ, キベリヒラタガムシ, セマルガムシ, キベリヒラタガムシ.
129. 新家 勝(1988) 宝塚大橋の甲虫(その1)
きべりはむし16(1) : 17-19.
水棲甲虫次の記録あり.
ゲンゴロウ科, 6種. キベリクロヒメゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ウスイロシマゲンゴロウ.
ガムシ科, 2種. ヒメガムシ, コガムシ.
130. 相坂耕作(1988) 「播磨の昆虫」(のじぎく文庫)
ミズスマシについての解説あり(p.68-69).
131. 佐用ライオンズクラブ(1989) 「千種川の生態」第16集. [水生生物調査] A5, 22p.

次の水棲甲虫の記録がある。

モンキマメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシ、コガムシ、ヒメガムシ、ヒラタドROMシ、ナガドROMシ、アシナガドROMシ。

132. 中根猛彦(1989) 日本の甲虫(36)。

昆虫と自然24(4) : 22-26.

兵庫県産次の種について記録がある。

コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis*
Sharp, 1873.

ナミスジツブゲンゴロウ *Laccophilus flexuosus*

Aubé, 1838. 神戸美作〔Brancucci, 1983〕

コセスジゲンゴロウ *Copelatus parallelus* Zimmermann, 1920 兵庫県〔原産地：摂津〕

133. 中根猛彦(1990) 日本の甲虫(89)(新シリーズ)。

昆虫と自然25(1) : 26-31.

Hydaticus thermonectoides Sharp マダラシマゲンゴロウ 兵庫県の記録がある。

134. 佐用ライオンズクラブ(1990) 千種川の生態第17集。32p.

次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ、ヒラタドROMシ、アシナガドROMシとあるがアシナガミゾドROMシのことか(ヒメドROMシ科)、ヒメガムシ。

135. 上野哲郎(1990) 姫路市の溜池における水生昆虫の分布。

兵庫陸水生物(35) : 2-7.

次の水棲甲虫が記録されている。

ゲンゴロウ科, 4種。ヒメゲンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科, 2種。ミズスマシ、オオミズスマシ。

ガムシ科, 2種。セマルガムシ、ヒメガムシ。

136. 新家 勝(1990) 武庫川の昆虫目録。

伊丹の自然(8) : 1-15.

水棲甲虫次のように記録されている。

ゲンゴロウ科, 6種。ケベリヒメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ。

ガムシ科, 2種。ヒメガムシ、コガムシ。

ヒラタドROMシ科, 1種。ヒラタドROMシ。

137. 中根猛彦(1990) 日本の雑甲虫覚え書6。北九州の昆虫37(2) : 61-64.

武庫川に産するものは、*Potomonectes niponicus* (Takizawa, 1923)である(コシマチビゲンゴロウ近似種) = *Nebrioporus niponicus* (Takizawa, 1933) ヒメシマチビゲンゴロウ。

138. 阿部光典(1990) "幻のゲンゴロウ"を沖縄で発見す。

甲虫ニュース(91) : 5-6.

サザナミツブゲンゴロウ *Laccophilus flexuosus* Aubé, 1938 が兵庫県神戸市からも記録されている。

139. 西村 登・上野哲郎(1990) 岸田川と夢前川の水生昆虫相の比較。

兵庫陸水生物(36-37) : 167-174.

140. 北山 昭(1991) 西日本におけるオオヒメゲンゴロウの記録。

甲虫ニュース(93) : 4.

オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus* Sharp 神戸市北区大沢町 2exs., 13. I. 1991, 森 正人採集。

141. 新家 勝(1991) 尼崎西部の昆虫(その5)。きべりはむし19(2) : 37-41.

次のゲンゴロウが記録されている。

ゲンゴロウ科。ゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、シマゲ

ンゴロウ。

142. 市川憲平(1991) 止水性水生昆虫の衰亡と保護をめぐる。

自然保護と昆虫研究者の役割Ⅱ：1-7.

(日本昆虫学会第51回大会小集会講演・寄稿論文集)

ゲンゴロウ、ガムシについて兵庫県下姫路以西での分布についての言及あり。

143. 西本 裕(1992) 甲子園浜の昆虫。

兵庫生物10(3)：附：8-10.

ハイロゲンゴロウ1種が記録されている。

144. 小田中 健(1992) 宝塚の昆虫Ⅱ。甲虫目(1)：1-168.

次のように水棲甲虫類が記録されている。

コガシラミズムシ科, 1種。コガシラミズムシ。
コツブゲンゴロウ科, 1種。コツブゲンゴロウ。
ゲンゴロウ科, 14種。ケシゲンゴロウ, コマルケシゲンゴロウ, チビゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ, ホソセスジゲンゴロウ, モンキマメゲンゴロウ, マメゲンゴロウ, キベリクロヒメゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ハイロゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ウスイロシマゲンゴロウ, ゲンゴロウ。

ミズスマシ科, 2種。オオミズスマシ, ミズスマシ。

ガムシ科, 14種。セマルマグソガムシ, ウスモンケシガムシ, シジミガムシ, キヒロヒラタガムシ, キベリヒラタガムシ, チビヒラタガムシ, ガムシ, ヒメガムシ, コガムシ, タマガムシ, マメガムシ, ゴマフガムシ, ヤマトゴマフガムシ, トゲバゴマフガムシ。

ナガドROMシ科, 1種。タテスジナガドROMシ。

ヒメドROMシ科, 1種。キスジミゾドROMシ。

145. 北山 昭・八木 剛(1992) 大阪府から記録されたゲンゴロウ類。

月刊むし(260)：22-25.

表題通り大阪府に産するゲンゴロウ類の解説であるが、その中で *Hydaticus rhanoides* Sharp.

1882 ウスイロシマゲンゴロウが現在でも神戸の北部で少ないながら採集できるという記録がある。

146. 沢田和宏(1992) 神戸市の冬の海岸で採集した甲虫。

きべりはむし20(2)：48-49.

コケシガムシ 須磨浦海岸の記録。

147. 河上仁之(1993) 武庫川の昆虫。

伊丹の自然 第1巻：127-129.

次の水棲甲虫の記録あり。

ゲンゴロウ科, 4種。ハイロゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ。
ガムシ科, 1種。タマガムシ。

148. Kitayama, A. Mori, M. Matsui, E. (1993)

A new species of *Hydrovatus* from Japan.

Akitu(137)：1-4.

Hydrovatus yagii Kitayama, Mori et Matsui
ヤギマルケシゲンゴロウの新種記載。加西市宵野ヶ原産 16.V.1992 北山 昭, 森 正人採集 (Paratype)。

149. 森 正人・北山 昭(1993) 図説 日本の

ゲンゴロウ。A5, 217p. 32カラープレート

(文一総合出版・東京)

兵庫県に産すると考えられるゲンゴロウ(ムカシゲンゴロウ, コツブゲンゴロウ, ゲンゴロウ科を合せて)45種であるとされており, 県下の詳しいデータのついた18種が美しいカラーで図説されている(うち1新種, 1未記載種を含んでいる)。次にそれらを記しておく。

ムカシゲンゴロウ *Phreatodytes relictus* S.Uéno,

1957. 図説9-1a. 姫路市飾西 29.XI.1991, Kitayama leg.

ムモンチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocaptus* sp.
p.45-46, 図説9-4. 加西市宵野ヶ原 15.IX.1992, Kitayama leg.

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus palitus* (Sharp, 1873) 図説 10-7-a-e. 加西市宵野ヶ原 16.V.1992 Kitayama leg.

キボシゲンゴロウ *Nipponhydrus flavomaculatus* (Kamiya, 1938) 図説 10-10-a. 神戸市北区道場 9.VI.1991 Kitayama leg.

ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus* Sharp, 1873 図説 11-16.6.c. 加西市宵野ヶ原 15.IX.1992 Kitayama leg.

ヤギマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus yagii* Kitayama, Mori et Matsui, 1993. p.62-63. 図説 12-19a,b. 加西市宵野ヶ原 16.V.1992, Kitayama leg. (Paratype). 加西市宵野ヶ原 16.V.1992, Mori leg. (Paratype).

マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882 図説12-20a,b. 加西市宵野ヶ原 16.V.1992, Kitayama leg.

コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859 図説 12-21a,b. 加西市宵野ヶ原 16.V.1992, Mori leg.

マルチビゲンゴロウ *Leiodytes frontalis* (Sharp, 1884) 図説 13-29a,c. 加西市宵野ヶ原 16.V.1992, Kitayama leg.

メクラゲンゴロウ *Morimotoa phreatica* S.Uéno, 1957 図説 16-51-Aa. 姫路市西飾西 29.XI.1992, Kitayama leg.

ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873 図説 17-54a,b. 加西市宵野ヶ原 15.IX.1992, Kitayama leg.

シャープツブゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* Regimbart, 1889 図説 17-58a,b. 加西市宵野ヶ原 16.V.1992, Kitayama leg.

モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (Sharp, 1873) 図説 19-726. 神戸市北区道場 Kitayama leg.

クロマメゲンゴロウ *Agabus optatus* Sharp, 1884 図説 20-77a. 温泉町前 28.X.1992, Kitayama leg.

ハイイロゲンゴロウ *Eretes sticticus* (Linnaeus, 1767) 図説 23-94a-c. 神戸市北区大沢 13.I.1991, Mori leg.

シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringii* Clark, 1864 図説 23-96c,d. 美方郡温泉町中辻 18.VIII.1992, Mori leg. 神戸市北区道場 13.VI.1992 Mori leg.

ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhantoides* Sharp, 1882 図説 25-102a. 神戸市北区八多 13.I.1991, Mori leg.

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aubé, 1838 図説 26-108c. 美方郡村岡町租岡 18.V.1991, Kitayama leg.

150. 長谷川 洋(1993) キイロコガシラミズムシ兵庫県の記録.

甲虫ニュース(103):8.

龍野市奥池からの採集(1ex., 16.IX.1992).

151. 高橋寿郎(1994) 西播磨の甲虫相.

兵庫生物10(5):179-181.

ムカシゲンゴロウ, メクラゲンゴロウを記録解説.

152. 内海功一(1994) 平成5(1993)年度水生生物調査について.

千種川の生態第21集:5-18.

ヒメドロムシ科として種名が示されていない。モンキマメゲンゴロウの記録あり。

153. 小田中 健(1994) 宝塚の昆虫(補遺).

宝塚の昆虫VII:337-370.

追加種としてゲンゴロウ科のカンムリセスジゲンゴロウが安倉で採集された記録.

154. 建設省河川治水課監修. 財団法人リバーフロント整備センター編集(1994)

平成4年度河川水辺の国勢調査年鑑. 陸上昆虫数等調査編 B5.1328pp. (山海堂・東京)

本書は平成4年度に国が直轄で管理している全国の109の1級河川のうち48水系で陸水昆虫類調

査を実施した。今回平成4年度から平成5年度に調査が継続している河川を除く42水系について調査結果のとりまとめを行ったものである。調査に当たった人達がどのレベルの人達であるのか、同定はどのような方がやられたのか等々明確にされていなく、学名は一切使用されず和名だけの羅列になっている点とか、採集データは一切無く注目種の解説、昆虫相の解説等もほとんど無く、この記録を無条件に受け入れるには若干抵抗を感じる。もう少し責任ある報告書としてまとめてほしかった。兵庫県からは猪名川、加古川、揖保川流域の調査が行われた。

猪名川

平成4年度の現地調査は夏季(7月16日～8月29日)、秋季(10月13日～10月17日)、春季(平成5年5月15日～5月26日)の3回4地点において実施。水棲甲虫としては、

ゲンゴロウ科。モンキマメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ属の一種の3種。
 ガムシ科。セマルガムシ、ヒメシジミガムシ、キイロヒラタガムシ、コガムシ、マメガムシ、トゲバゴマフガムシの6種。

ヒラタドROMシ科。ヒラタドROMシの1種。

ヒメドROMシ科。キスジミゾドROMシ、ミツツヤドROMシの2種の記録。

加古川

平成4年度の現地調査は春季(6月26日～6月28日)、夏季(8月7日～8月10日)、秋季(10月1日～10月9日)の3回、本川4地点において実施。

ゲンゴロウ科。チビゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウの3種。

ガムシ科。セマルガムシ、セマルケシガムシ、キイロヒラタガムシ、シジミガムシ、ヒメガムシ、マメガムシ、トゲバゴマフガムシの7種。

ヒラタドROMシ科。ヒラタドROMシ、マスダチビヒラタドROMシの2種。

ヒメドROMシ科。キスジミゾドROMシ。

ナガドROMシ科。タテスジナガドROMシ。

以上の記録がある。

揖保川

平成4年度の現地調査は春季(6月27日～6月29日)、夏季(8月3日～8月6日)、秋季(10月3日～10月6日)の3回、本川5地点において実施。

ゲンゴロウ科。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウの4種。

ガムシ科。ウスモンケシガムシ、アカケシガムシ、キバネケシガムシ、セマルガムシ、セマルケシガムシ、キイロヒラタガムシ、コガムシ、ヒメガムシの8種。

ヒラタドROMシ科。ヒラタドROMシ。

ヒメドROMシ科。キスジミゾドROMシ。

以上が記録されている。

155. 相坂耕作ほか(1995) ひめじの昆虫II。
 (社)ひめじ花と緑の協会刊。

ゲンゴロウ科2種。ゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ガムシ科1種。コガムシがカラーで図説されている。

156. 県自然保護係・自然公園係(1995) 自然環境観察員提供情報の紹介。

自然とともに(28):7。

小野市来住町の加古川流域でコシマゲンゴロウと小型のゲンゴロウ(マルガタゲンゴロウか?)が泳いでいた。

157. 西村 登・原 昌久・山本一幸(1995) 兵庫県浜坂町久斗山水系の水生動物。

兵庫県浜坂町自然の現況:150-182。

甲虫としてはヒラタドROMシ、クシヒゲマルヒラタドROMシ、ゲンジボタルの3種が記録されている。

158. 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録(1995)。

神奈川県立博物館自然部門資料目録第8号：
1-66.

阿部光典氏が集めたゲンゴロウ類標本を、神奈川県立博物館自然部門へ寄贈されたものの目録である。その中に兵庫県産標本が次のごとくあるので、ここに記録しておくことにした。

カンムリセスジゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ、オオマルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、ヒメケシゲンゴロウ、ツブゲンゴロウの8種。

159. 相坂耕作(1995) 波賀町上野地区の昆虫類。
遊虫千年(2)：83-104.
p.101. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* の記録あり。

(追加)

160. 西村 登(1972) 岸田川上流の水生昆虫。
扇ノ山周辺の自然保護：31-37。
甲虫はヒラタドROMシだけが記録されている。

以上1995年迄に出版された兵庫県産の水棲甲虫についての文献類で、筆者の見得たもの、所有しているものを中心にとりまとめた。初めに記したごとく尚多くの関係文献の見落としや脱落があるかと思う。これらについて御教示頂くことが出来れば幸いである。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県産クロヒラタヨコバイについて

高橋寿郎

最近、M.Hayashi and K.Machida 両氏により日本産クロヒラタヨコバイについての再検討論文の発表があった(1996)。それによると、従来 *Penthimiidae* 科は *Penthimia* 属1属で、3種 *P. guttula* Matsumura, 1912 チャイロヒラタヨコバイ, *P. nitida* Lethierry, 1876 クロヒラタヨコバイ, *P. theae* Matsumura, 1912 チャノヒラタヨコバイが知られていた。今回の再検討で、
Genus *Penthimia* Germar, 1821.
P. nitida Lethierry, 1876
P. sincipitalis M.Hayashi et Machida, 1996.
P. guttula Matsumura, 1912.
P. okinawana M.Hayashi et Machida, 1996.
Genus *Chanohirata* M.Hayashi et Machida, 1996.
C. theae (Matsumura, 1912).
と1新属を加えて2属5種(うち2新種)がいることになり、兵庫県にはそのうち2属3種を産することになる。ごく普通に見られるもの、かなり珍

しいと考えられるものがいたりするので、それら兵庫県に分布している種について簡単に説明しておきたい。

まず、*Penthimia nitida* Lethierry, 1876 クロヒラタヨコバイは、全体真黒色で強い光沢を装うが、日本各地に普通に見られる種で、松村松年博士が *Penthimia nitida* Lethierry var. *maikoensis* Matsumura, 1912 と Maiko (舞子産) で記録された種もこの種のことである(前胸背、小楯板及び前翅の黄褐色を呈するもの)。兵庫県下にも広く分布しており、多くの方々には野外で1度はお目にかかったことのある種だと考えられる(初夏から広葉樹上に普通に見られる)。分布は日本(本州、四国、九州)、朝鮮、ロシア、支那、台湾。

Penthimia sincipitalis M.Hayashi et Machida, 1996. この種は今回初めて新種記載されたものである(p.60-63, Figs.2,7, 18-24)。この Paratypes の中に1♀, Akazai-keikoku, Hyogo Pref.23.